令和８年度上半期 経営報告会

令和8年11月16日

碧海信用金庫

目 次

令和8年度上半期の業績（2026年4月～9月）

令和8年度経営計画の進捗状況…… 3
1－1 金融資産の残高 …… 4
1－2 預金積金の内訳 …… 5
2－1 貸出金の残高 …… 6
2－2 貸出金の内訳 …… 7
3－1 損益の状況 …… 8
3－2 損益の増減要因 …… 9
(参考)長期金利の推移 …… 10
4－1 有価証券の運用状況 …… 11
4－2 有価証券の評価損益 …… 12
5－1 純資産の状況 …… 13
5－2 自己資本比率の状況 …… 14
5－3 不良債権の状況 …… 15

本資料に記載の計数は、単位未満を切り捨てて表示しております。
なお、合計等は原数値で計算してから切り捨てて表示しておりますので、表上の合計が一致しない場合があります。

対処すべき課題への取組状況

・令和8年度に取り組む ～3つの戦略～ …… 17
・＜戦略１＞永遠のファンを増やす …… 18
・＜戦略２＞笑顔の組織をつくる …… 23
・＜戦略３＞金庫の価値を高める …… 25
・コンプライアンス態勢・リスク管理態勢の更なる強化 …… 26
・サイバーセキュリティへの対応 …… 27

令和８年度上半期の業績

（２０２６年４月～９月）

令和８年度経営計画の進捗状況

□ 第１１次中期経営計画（３カ年計画）の３年目

参考

コア業務純益（投資信託解約損益を除く）とは、業務純益から一時的な変動要因（債券等の売却損益等）を除いたもので、本業の収益力を示す利益です。一般企業の営業利益に近いものです。

上半期実績は下記の通りとなっており、概ね計画通り進捗しております。

指　標	項　目	令和８年度 年間計画	上半期 実績	進捗状況
規　模	預金残高（期中平均残高） （下段：前期比）	23,220億円 （＋6億円）	23,241億円 （＋28億円）	＋21億円
	貸出金残高（期中平均残高） （下段：前期比）	12,600億円 （＋349億円）	12,552億円 （＋301億円）	△47億円
収益性	お客さま向けサービス業務粗利益 （※1）	13,900百万円	6,685百万円	48.09％
	コア業務純益 （投資信託解約損益を除く）	5,300百万円	3,034百万円	57.25％
生産性	コアＯＨＲ（※2）	70.00％以下	67.42％	2.58ポイント改善

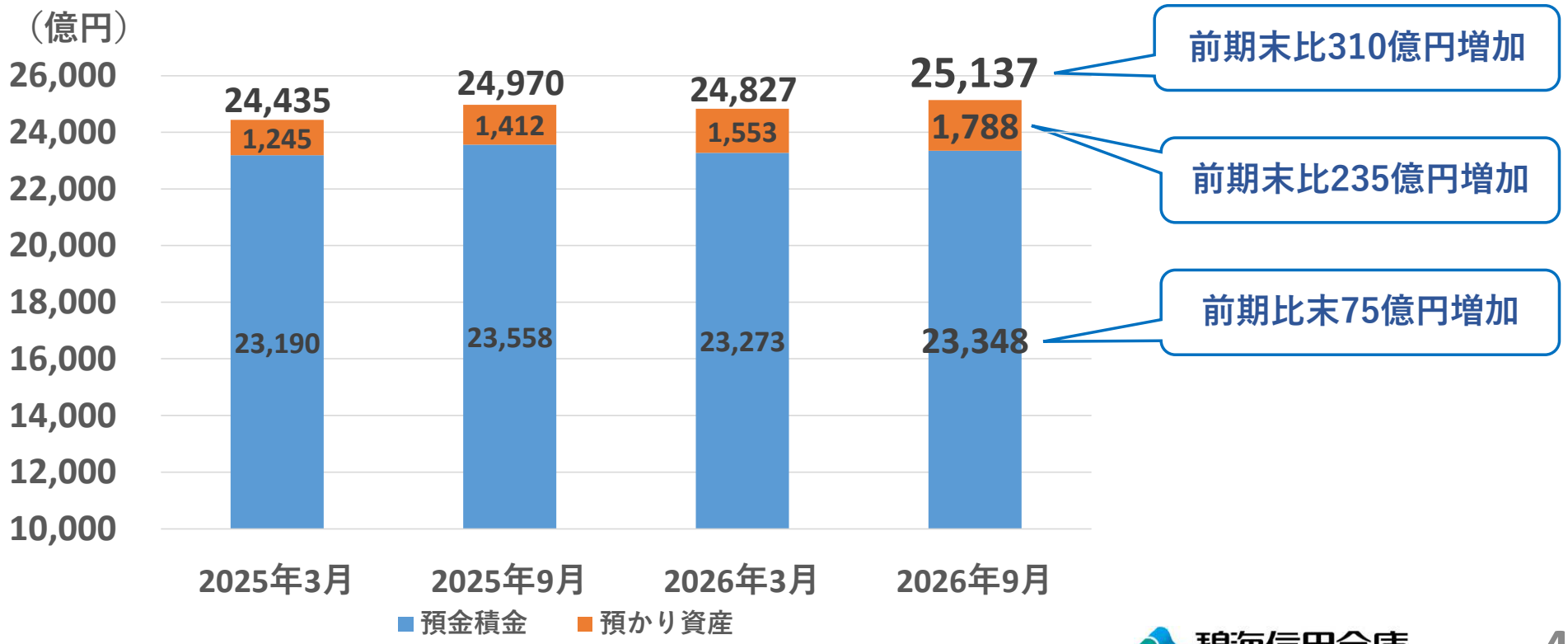
（※1）お客さま向けサービス業務粗利益＝貸出金利息－預金利息×預貸率＋役務取引等利益
（※2）コアＯＨＲ＝経費（減価償却費・預金保険料を除く）÷コア業務粗利益（投資信託解約損益を除く）

1－1　金融資産（預金積金＋預かり資産）の残高

- □ 預金積金残高は2兆3,348億円、前期末比75億円増加
- □ 預かり資産残高は1,788億円、前期末比235億円増加
- □ 金融資産の合計は2兆5,137億円、前期末比310億円増加

参考

預かり資産残高は、お客さまからお預かりしている個人向け国債、生命保険、投資信託の合計です。

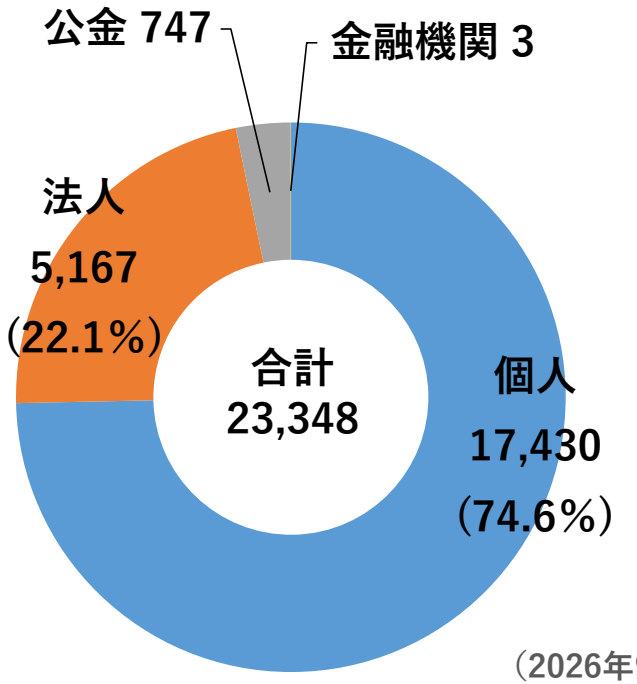


碧海信用金庫

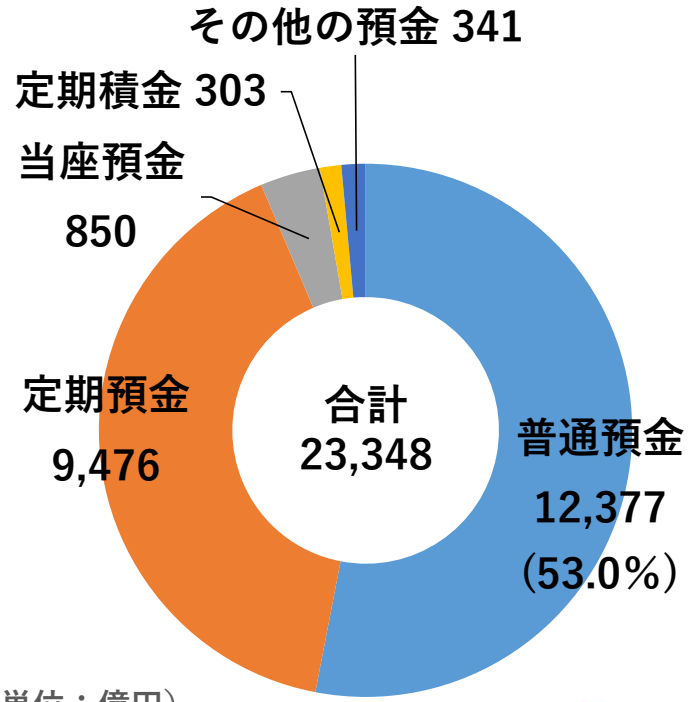
1－2　預金積金の内訳

□ 個人のお客さまからの預金積金が全体の74.6％
□ 科目別では、普通預金が全体の53.0％

預金者別預金積金残高



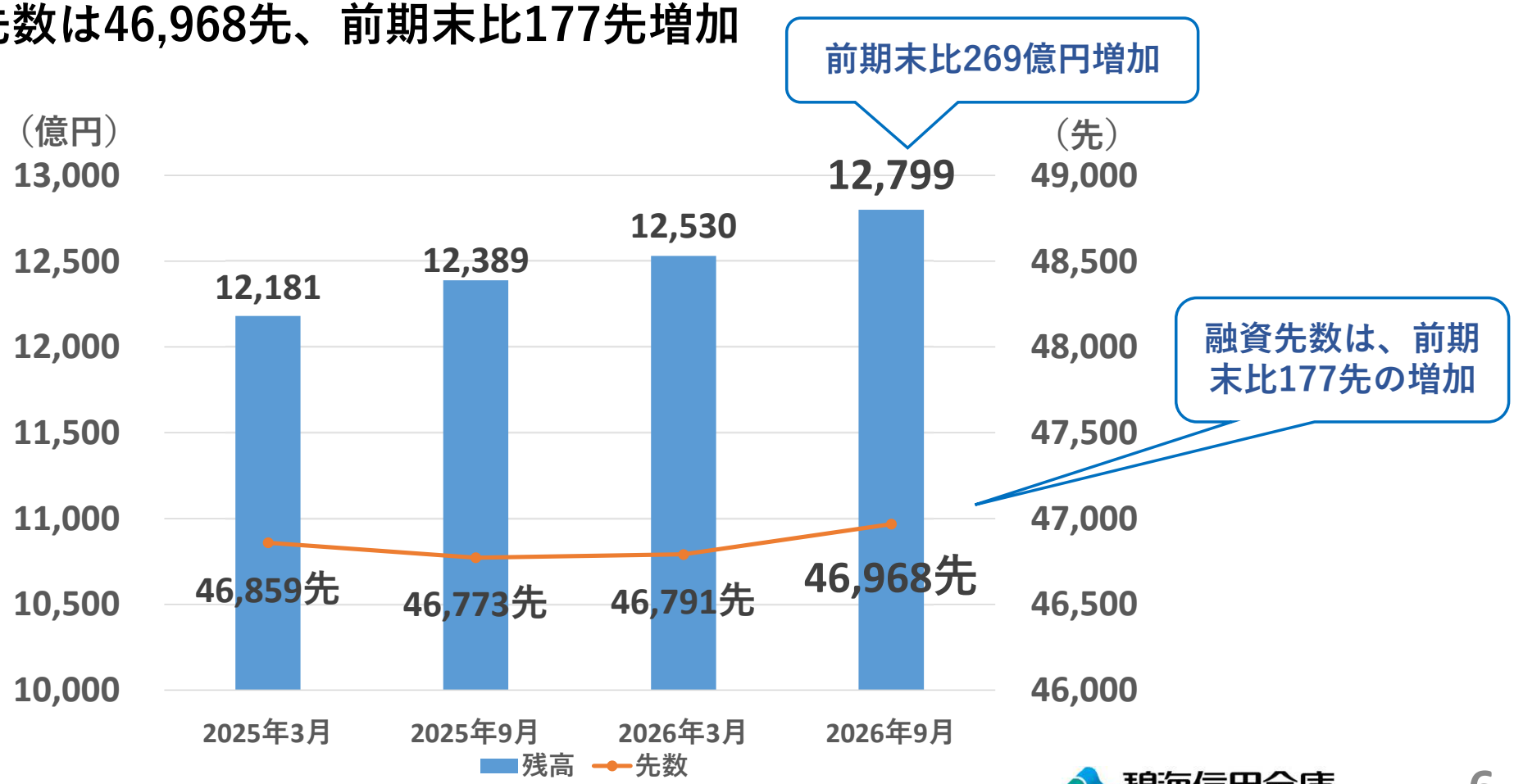
科目別預金積金残高



（2026年9月末、単位：億円）

2－1　貸出金の残高

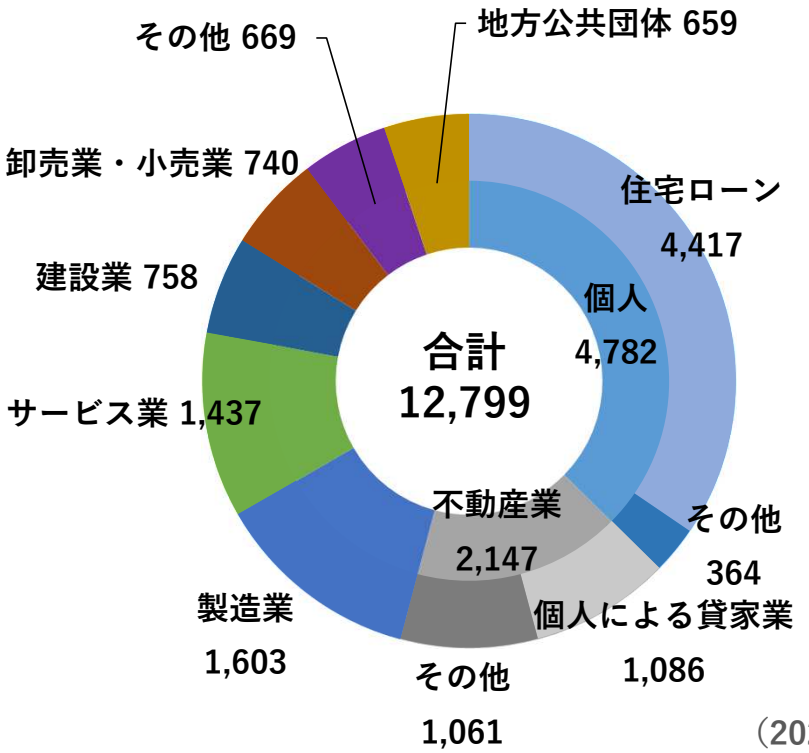
□ 貸出金残高は1兆2,799億円、前期末比269億円増加
□ 融資先数は46,968先、前期末比177先増加



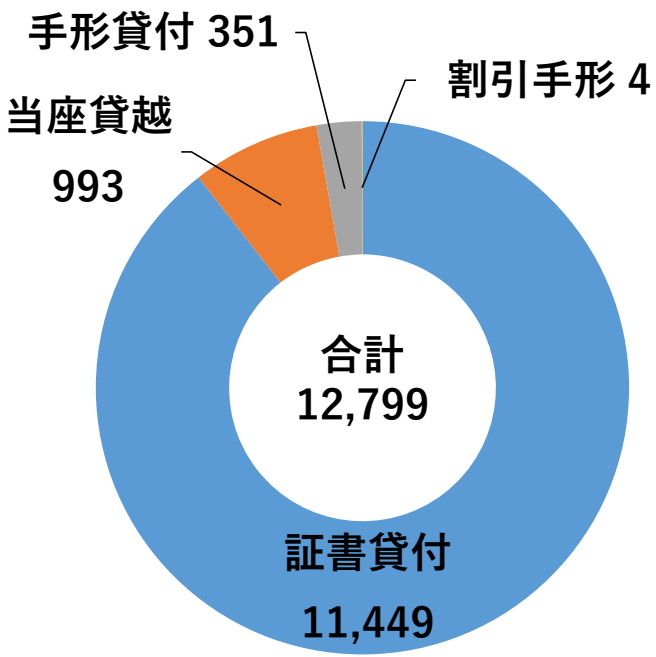
2－2　貸出金の内訳

□ 特定の業種に偏ることなく、幅広い業種の資金需要に対応
□ 事業者向けの貸出金が全体の57.4%、個人向け貸出金が全体の37.3%

業種別貸出金残高



科目別貸出金残高



（2026年9月末、単位：億円）

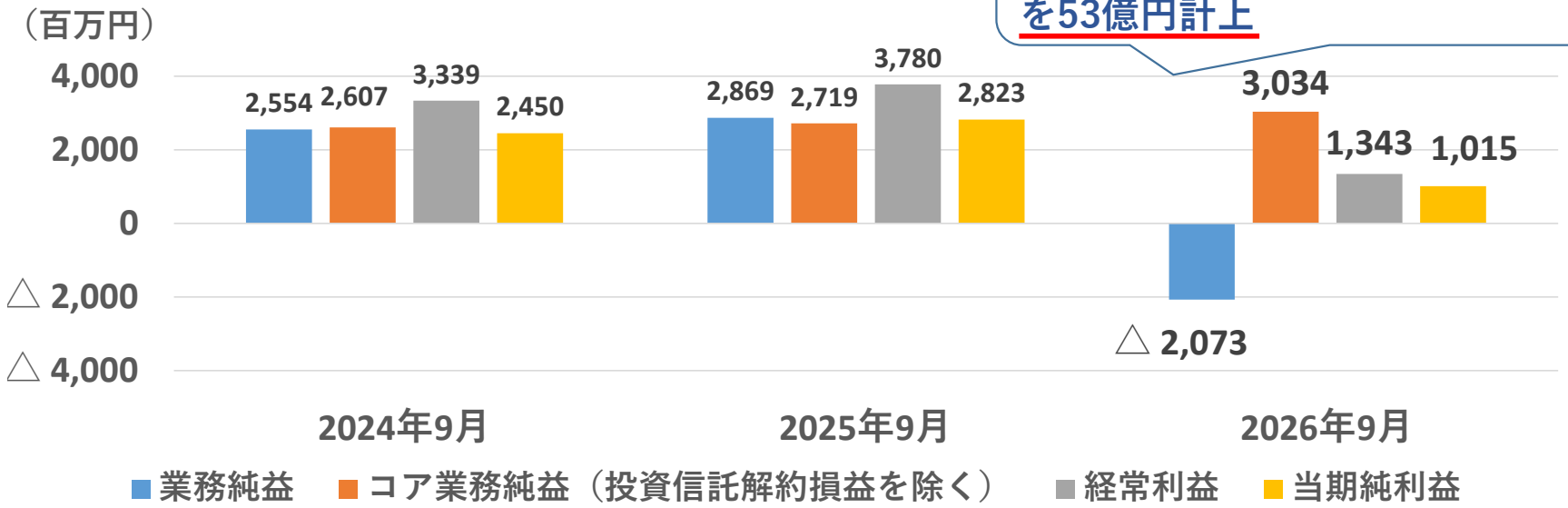
3－1　損益の状況

□ 業務純益・・・△20億73百万円（前年同期比49億42百万円減少）
□ コア業務純益（投資信託解約損益を除く）
・・・・30億34百万円（前年同期比　3億15百万円増加）
□ 経常利益・・・・13億43百万円（前年同期比24億37百万円減少）
□ 当期純利益・・・10億15百万円（前年同期比18億　7百万円減少）

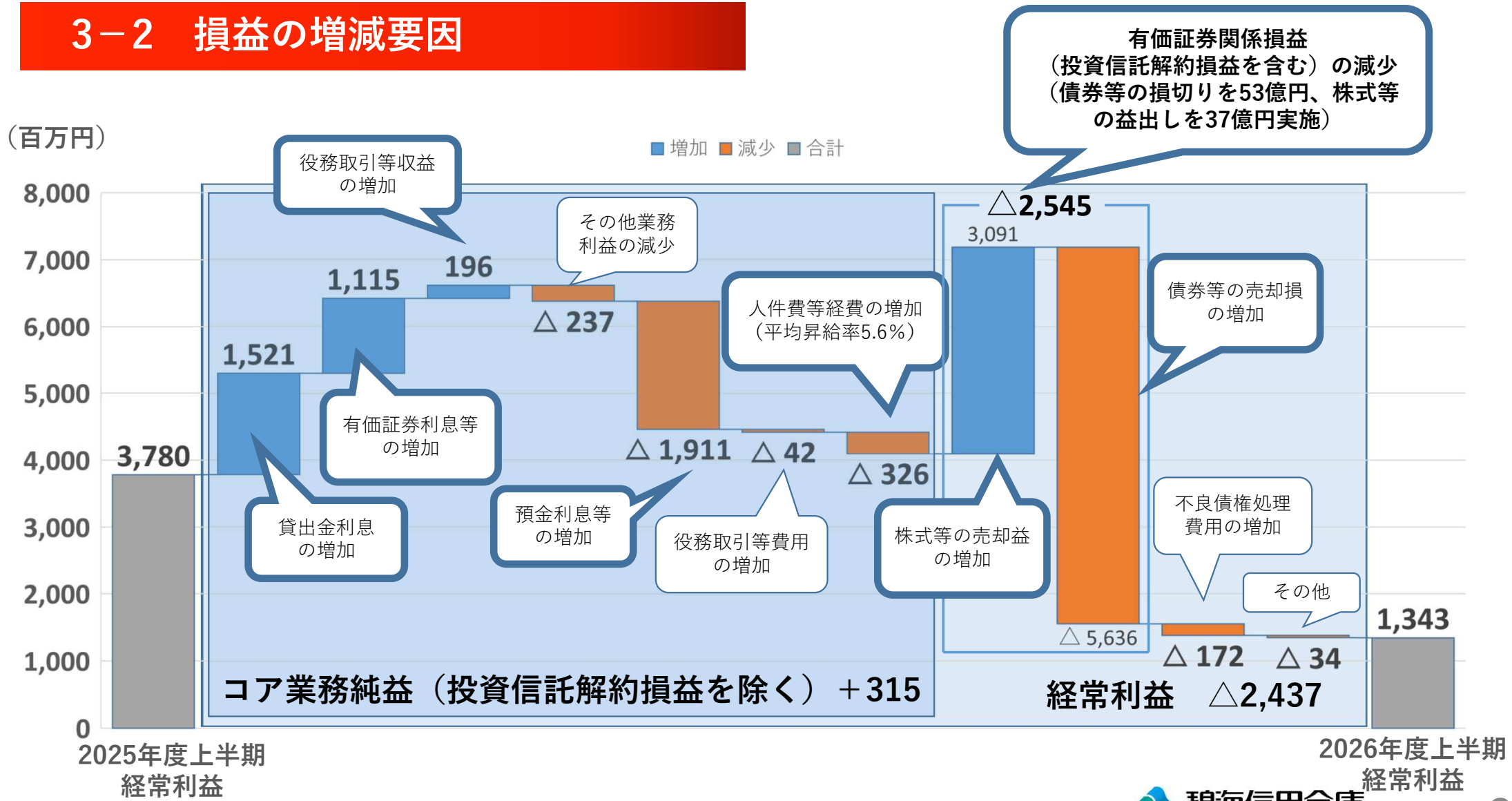
参考

業務純益とは、本業の収益力を示すコア業務純益（投資信託解約損益を除く）に一時的な変動要因（債券等の売却損益等）を加味したものです。

将来の収益性向上のため、金利の低い債券、非上場投資信託を損切りし、売却・解約損を53億円計上



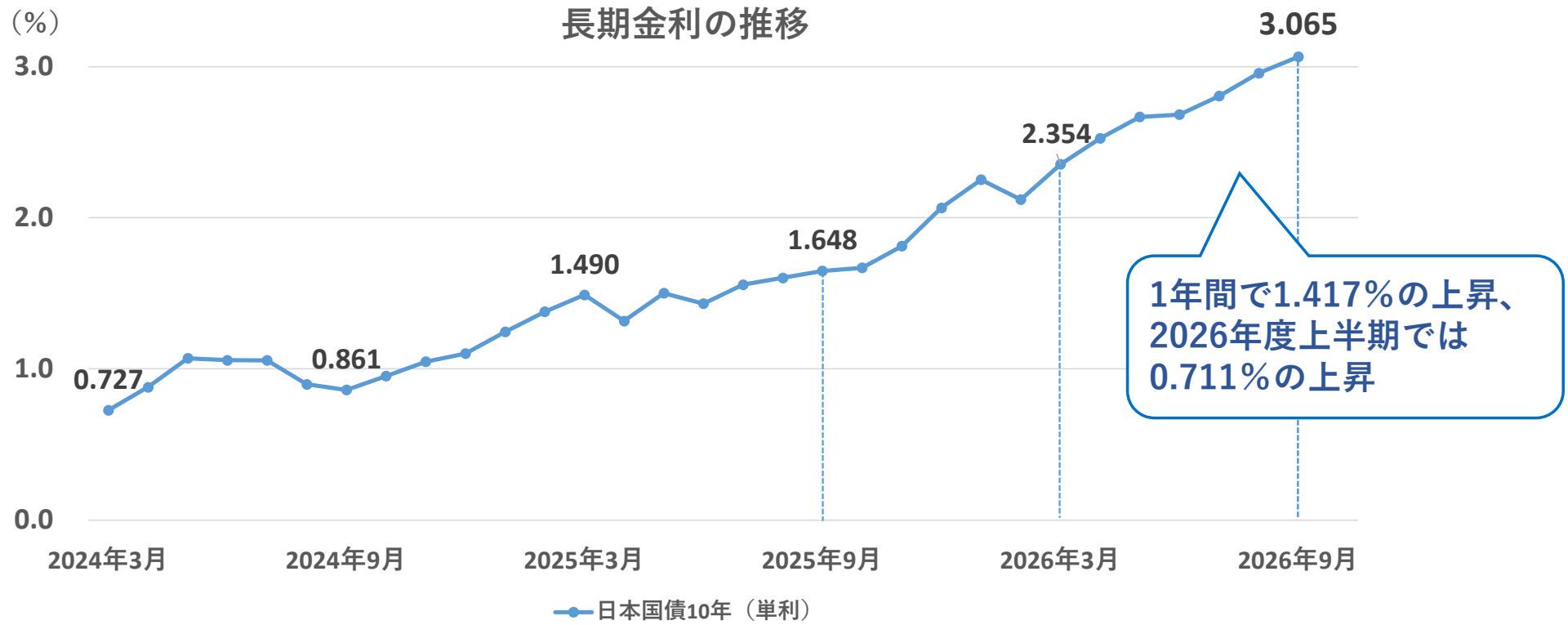
3－2　損益の増減要因



碧海信用金庫

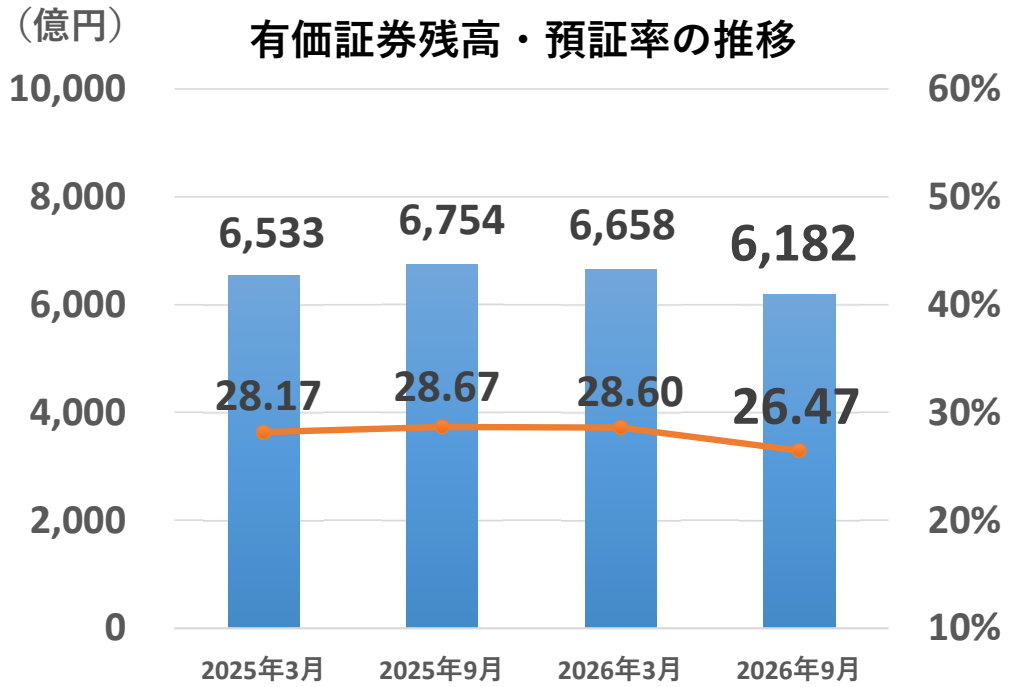
（参考）長期金利の推移

□ 2026年度の日本の長期金利（日本国債10年）は、日銀の金融政策正常化に伴い上昇傾向で推移

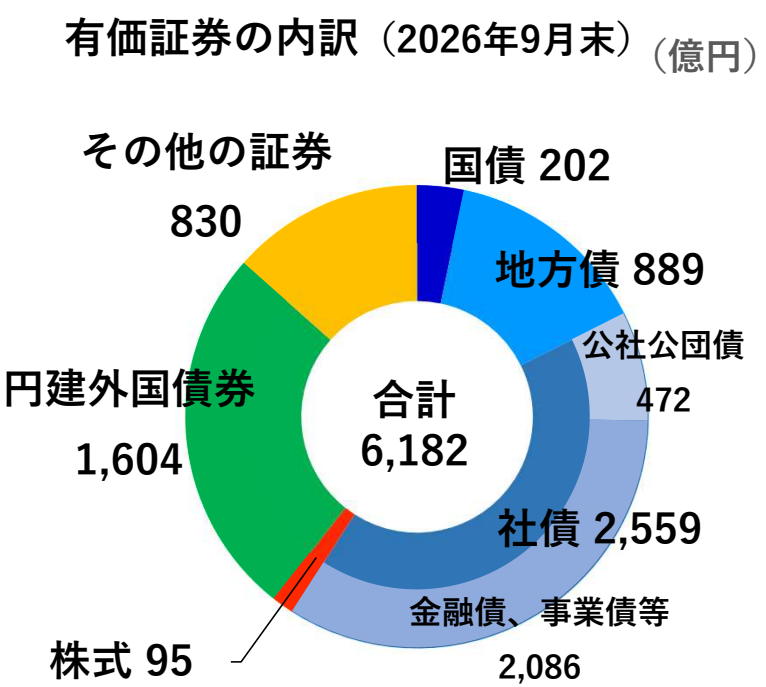


4－1　有価証券の運用状況

□ 有価証券残高は6,182億円、前期末比476億円減少
□ 預証率は26.47％
□ 国内金利の上昇に備え、リスク抑制的な運用を継続



※預証率＝有価証券残高÷預金積金残高



碧海信用金庫

4－2　有価証券の評価損益

□ 有価証券の評価損益は△717億円
□ 国内金利の上昇により、積極的に損切りを実施したが評価損が前期末比77億円拡大
□ 保有する債券は国債、地方債、格付けの高い社債・円建外国債券であり、信用リスクは極めて低く、債券は満期時に額面で償還されるものが主体
□ 内部留保により蓄積された利益剰余金（1,954億円）で十分吸収できる水準

有価証券の評価損益

（億円）

	2026年3月末	2026年9月末	増　減	2026年11月11日現在
有価証券　計	△639	△717	△77	△657

※上半期は損切りを簿価ベースで220億円実施しております。
※会計上、時価評価の対象外となる「満期保有目的の債券」は保有しておりません。

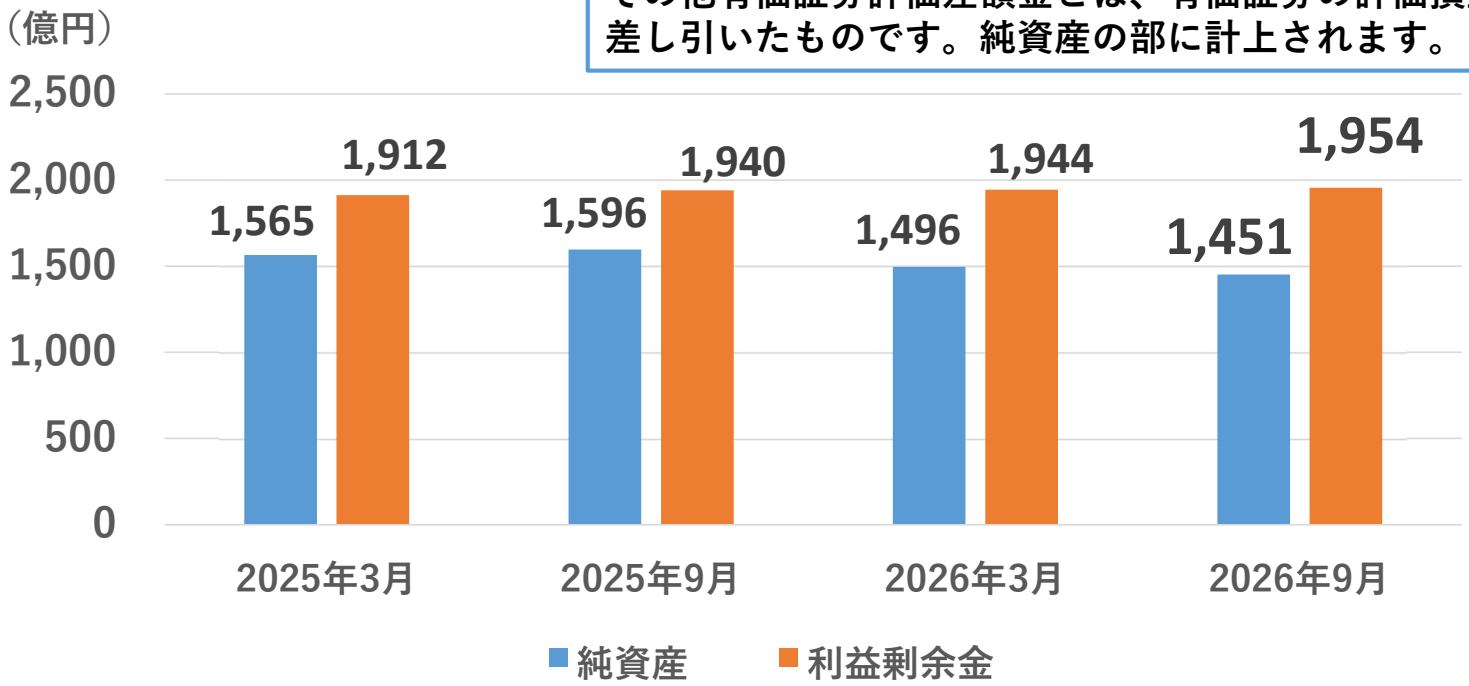
5－1　純資産の状況

□ 市場金利等の上昇により、その他有価証券評価差額金の控除額が前期末比56億円増加の515億円となったため、純資産は前期末比44億円減少の1,451億円

□ 利益剰余金は、前期末比9億円増加の1,954億円

参考

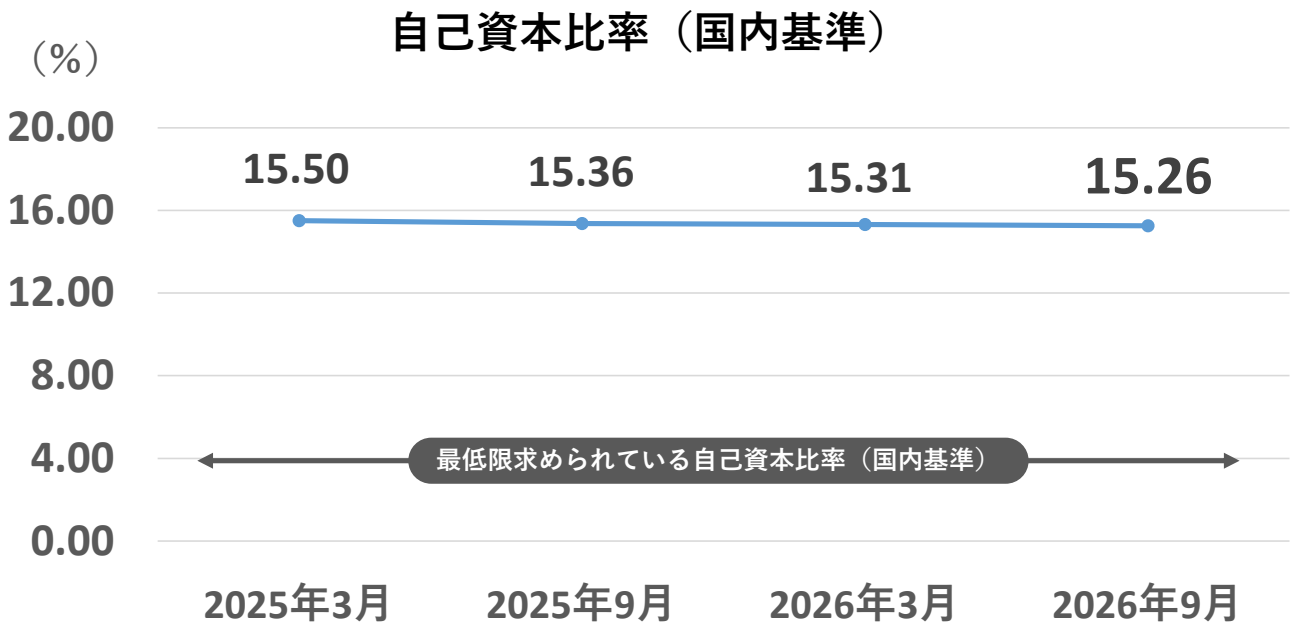
その他有価証券評価差額金とは、有価証券の評価損益から税効果分を差し引いたものです。純資産の部に計上されます。



※ その他有価証券評価差額金：有価証券評価損益×（1－法定実効税率）

5－2　自己資本比率の状況

□ 自己資本比率は、貸出金等の増加により前期末比0.05ポイント低下の15.26％
□ 信用金庫に最低限求められている水準(4％)を大幅に上回る

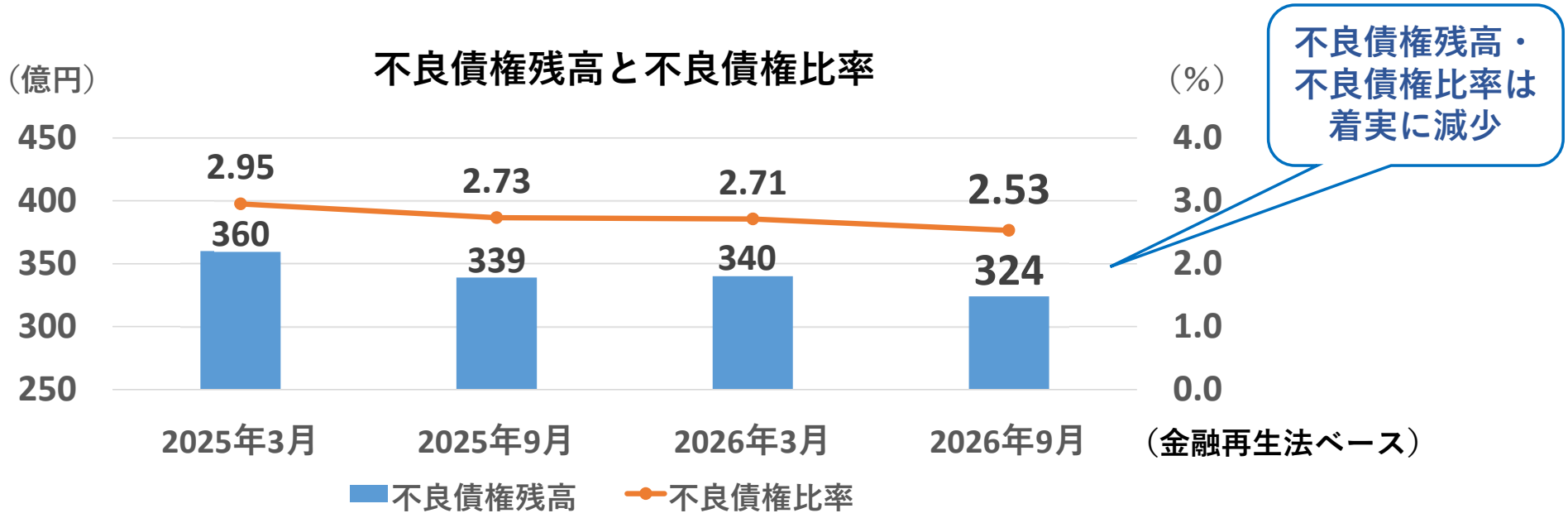


自己資本比率(%)＝(自己資本額÷リスクアセット)×100

碧海信用金庫

5－3　不良債権の状況

□ 事業再生・経営サポート活動に努め、不良債権残高は前期末比16億円減少の324億円、不良債権比率は前期末比0.18ポイント低下の2.53％と着実に低下
□ 不良債権の89.9％を担保や保証、貸倒引当金でカバー



※ 当金庫は債務者に対する債権のうち、回収可能性がないと判断した部分について、直接貸借対照表から減額する部分直接償却を実施しています。
※ 不良債権比率は、小数点第3位を四捨五入して表示しています。

対処すべき課題への取組状況

令和８年度に取り組む
～３つの戦略～

＜戦略1＞ 永遠のファンを増やす
～地域支援力の更なる強化～

＜戦略2＞ 笑顔の組織をつくる
～お客さま、職員満足度向上に向けた庫内環境づくり～

＜戦略3＞ 金庫の価値を高める
～持続的成長を実現する基盤の構築～

＜戦略１＞永遠のファンを増やす

～ 事業者のお客さまの課題解決 ～

● 課題解決型営業の推進

・お客さまが抱える多様な課題に対し、営業店とコンサルティング営業部・個人営業部・デジタル戦略部が一体となって質の高い課題解決型営業を実施しています

□ コンサルティング相談件数（2026年度上半期計 3,113件　前年同期比 ＋614件）

	2026年度上半期	2025年度上半期		2026年度上半期	2025年度上半期
事業承継・M&A	583件	252件	販路開拓支援	182件	169件
建設不動産ビジネスマッチング	728件	505件	医療・介護支援	14件	27件
人材採用支援	187件	176件	カーボンニュートラル支援	8件	21件
デジタル化支援	144件	158件	中小企業施策支援	579件	498件
補助金支援	68件	63件	相続相談	584件	574件

＜戦略１＞永遠のファンを増やす

～ 事業者のお客さまの課題解決 ～

● スタートアップと中小企業の連携強化

・ 地域の中小企業と連携するスタートアップへの支援

□ へきしんスタートアップ投資事業有限責任組合（へきしんAOMIファンド）による出資

	投資数	投資額
2026年度上半期	3 社	80百万円

・ スタートアップと地域の中小企業の技術力をマッチング

□ STATION Aiにて岐阜信用金庫、豊橋信用金庫と「3しんきん Startup Pitch」を開催し、地域中小企業とスタートアップ企業のマッチングを促進

● お客さまの課題解決支援

□「自動車業界価格転嫁シンポジウム」を開催



3しんきん Startup Pitch（9月8日）



自動車業界価格転嫁シンポジウム（9月25日）

＜戦略１＞永遠のファンを増やす

～ 事業者のお客さまの課題解決 ～

● お客さまの販路開拓支援

□ 名古屋商工会議所等と連携し、衣･食･住に関する
バイヤーとの「パートナー発掘商談会」を開催（8/27）

□ 株式会社髙島屋×碧海信用金庫「あいち三河グルメフェア」を開催

髙島屋が発行する食品宅配カタログ「ローズキッチン」(11月号)に
同封される「あいち三河グルメフェア」特集チラシへの出品を支援

□ 株式会社ヤマナカ×碧海信用金庫
「愛知グルメフェア inフランテロゼ」販売会を開催
（11/6～11/8）

□ 安城市と民間事業者等が地域課題解決に向け相互連携
する「あんじょうSDGｓ共創パートナー制度」のパ
ートナー交流会を安城市と共催し、公民連携による
新たなビジネスの創出を支援

参加事業者数 41事業者（うち当金庫お取引先 26事業者）



髙島屋バイヤーとの商談会（6月25日・26日）



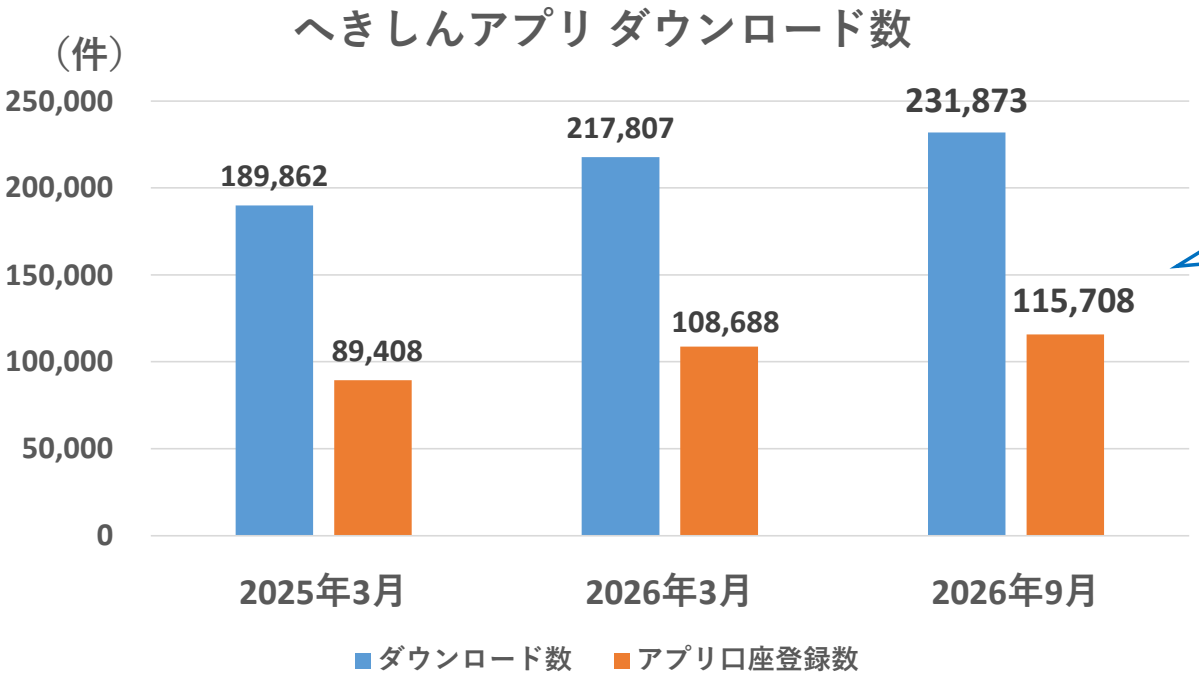
あんじょうSDGs共創パートナー制度パートナー交流会
（9月17日）

＜戦略１＞永遠のファンを増やす

～ 金融サービスへのデジタルの活用 ～

□ へきしんアプリの活用

アプリのダウンロードにより、便利でお得な情報やクーポンを取得できます。また、口座登録により、口座の入出金明細の確認等、様々な金融サービスをご利用できます。



・アプリ口座登録については、若年層から高齢者層まで幅広い年齢層のお客さまにご利用いただいており、特に20～39歳のお取引先のうち、約半数がアプリ口座登録をされるなど浸透しております。

・ダウンロード数は、前期末比14,066件の増加
・アプリ口座登録数は、前期末比7,020件の増加

＜戦略１＞永遠のファンを増やす

～ 金融サービスへのデジタルの活用 ～

□ 電子契約サービスの活用

● 電子契約サービスとは
- 融資契約において、お客さまの紙の契約書類への署名・押印が不要
- WEB上のPDFデータに法的効力のある電子証明書を付す電子署名により、融資契約が締結できるサービス

＜電子契約率＞

	住宅ローン	事業性融資
令和５年度	８４.６％	－
令和６年度	９０.８％	－
令和７年度	９０.１％	※５４.４％
令和８年度上半期	９３.４％	７０.５％

← 住宅ローンは、令和５年２月より全営業店で取扱開始

← 事業性融資は、令和７年１０月より全営業店で取扱開始
※令和７年１１月～令和８年３月の実績

デジタルを活用し、
お客さまの利便性向上に努めてまいります

＜戦略２＞笑顔の組織をつくる

～ お客さまの利便性向上 ～

● お客さまにも、環境にも優しい店舗

□ 高浜中央支店を新築オープン（11月24日）

【新店舗コンセプト】
お客さまがゆっくりと相談できる快適な店舗

【主な設備】
・二次元コード付きATM3台　・全自動貸金庫185函
・窓口は、個別ブース型ローカウンター
・個室型対話ブース　・太陽光発電設備　等

□ 高浜支店と吉浜支店は、高浜中央支店を母店とするパーソナル店舗としました

お客さまの課題解決に向けて
金融サービスの向上に努めてまいります

高浜市の伝統産業を取り入れ、庇部分を瓦葺としました



※外観イメージ

個別ブース型ローカウンターや個室型対話ブースを設置しています



※ロビー イメージ

＜戦略２＞笑顔の組織をつくる

～ 職員満足度向上に向けた取り組み ～

● ビジョンをもって笑顔で成長できる庫内環境づくり

□ AIロープレツール等を活用した職員のスキルアップ推進

□ 2026年度より、定年年齢を60歳から65歳に引き上げ
- ・55歳以上を対象とした役職定年制度を廃止
- ・シニア世代のリスキリングに向けた人材育成施策を強化

□ デジタル人材認定「マイスター制度」を導入
- ・全職員のデジタル人材化による業務効率化、生産性向上
- ・職員のデジタルスキルを3段階の★(星)で認定

	★（星１）	★★（星２）	★★★（星3）
２０２６年９月末現在	217名	4名	4名

□ 計画的な昇給の実施

＜全職員 平均昇給率＞　※年俸者、再雇用職員を除く
- ・2026年度 ・・・ 5.6％
- ・2025年度 ・・・ 6.2％

参考

AIロープレツールとは：
実際の営業活動に即したシナリオや年齢、職業等のさまざまな設定をしたAI顧客（アバター）との実践的ロープレを通じて、提案力や顧客対応力を強化するツール。



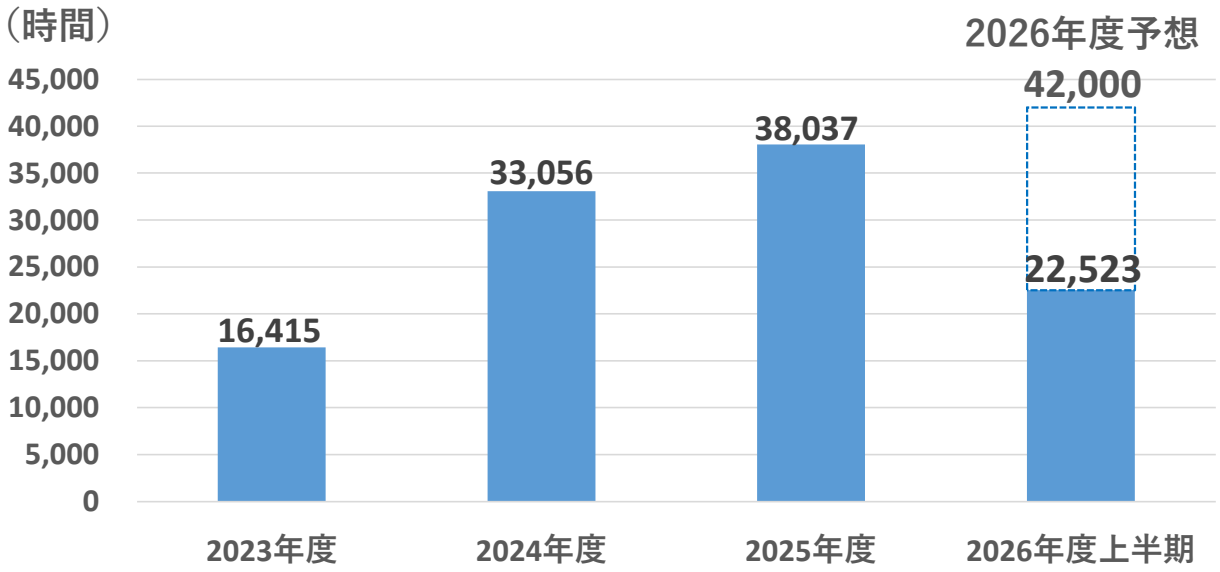
＜戦略３＞金庫の価値を高める

～ デジタルの業務への活用 ～

※３レス：ペーパーレス・キャッシュレス・印鑑レス
※ BOC（バックオフィスセンター）：
営業店事務を１カ所に集約・効率化するための本部組織

● DX戦略の進捗状況（KPI）

		2023年度	2024年度	2025年度	2026年度上半期
業務効率化 生産性向上	３レス、BOC化等による 営業店事務処理削減時間	16,415時間	33,056時間	38,037時間	22,523時間



※削減時間は、2023年3月のDX戦略策定後に実施した各種取り組みについて、年度ごとに実施効果を積算したもの。

コンプライアンス態勢・リスク管理態勢の更なる強化

＜第１１次中期経営計画（３カ年）の主な取組内容＞

■ 新組織体制におけるコンプライアンス管理態勢の強化

令和8年4月に従来、コンプライアンスとリスク管理を担当していたリスク統括部を、リスク統括部とコンプライアンス統括部へ分離独立させ機能を強化

- 健全な企業風土の醸成
- 不正･不祥事の防止
- ハラスメントの防止　等

■ 内部管理態勢の高度化に向けた金庫全体でのリスク管理態勢の強化

- IT等を活用した効率的な業務チェック体制の整備
- 統合的リスク管理態勢の強化
- サイバーセキュリティ管理態勢の強化
- マネロン等対策の有効性検証を通じた金融犯罪対策の強化　等

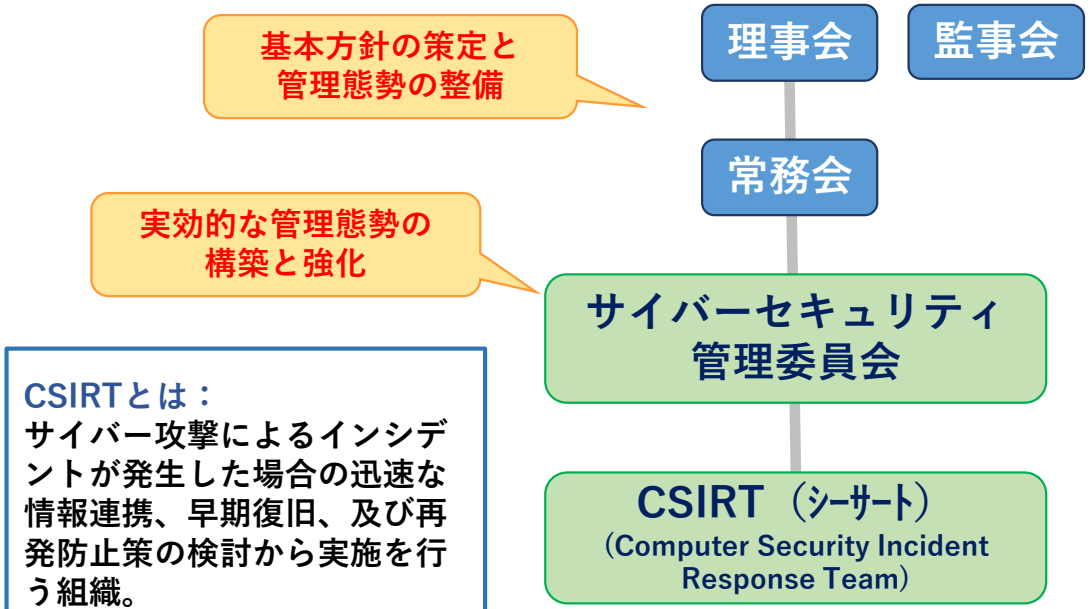
お客さまに安心してご利用いただける金庫を目指し、
取り組んでまいります

サイバーセキュリティへの対応

～ サイバーセキュリティ対策 ～

● サイバーセキュリティ対策管理態勢

□ サイバーセキュリティリスクを経営上の重要課題の一つとして位置づけ、関連諸法令を遵守しつつ経営主導による適切な管理を実践しています



CSIRTとは：
サイバー攻撃によるインシデントが発生した場合の迅速な情報連携、早期復旧、及び再発防止策の検討から実施を行う組織。

最近の当金庫の対応

- 外部接続となるクラウドサービス導入時には、クラウドサービスのセキュリティリスクを客観的に評価する株式会社アシュアードの評価点により導入可否を判断
- 全役員出席のもとサイバー攻撃を想定した金融庁主催のサイバーセキュリティ演習「Delta Wall 2026」に参加

※重大インシデント発生時には、理事長を本部長とする対策本部を設置

本日は、経営報告会にご参加いただき、誠にありがとうございました。
本日の説明内容に関するご照会等がございましたら、下記までお願いいたします。

【お問い合わせ先】

碧海信用金庫
経営企画部　企画グループ
TEL 0566-77-8102

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれております。こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
将来の業績は、経営環境の変化などにより、変動する可能性があることにご留意ください。
また、本資料に掲載されております計数につきましては、会計監査人の監査を受けておりません。
本資料の無断転載・転用は固くお断りします。

碧海信用金庫